

受験番号	
氏名	

一．次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「竹青荘に住む蔵原走、清瀬、神童、キング、ニコチャン、ジョージ、ムサ、ジョータ達は寛政大学陸上競技部の部員であり、一月二日と翌三日の二日間にわたって行われる箱根駅伝出場を目指している。」

「蔵原君はいるかな」

男はそう言ったが、視線はしっかりと走をとらえていた。走の顔を、あらかじめ認識してきたようだ。

「ちよつと話を聞きたくてね」

走は立って、男が差し出した **a** メイシ を受け取った。「週刊真実 望月周二」と書いてあった。

居合わせたほとんどのものは、万引き犯をつかまえた件で、記者が取材に来たのだと思っただろう。だが走にはわかっていて。この男は、^①俺の過去を嗅ぎつけてきたのだ、と。

「きみは、仙台城西高校の出身だね」

と望月は切りだした。清瀬がさつと顔色を変えて立ちあがったのが、視界の端に映った。

「はい」

と走は答えた。

「先日、万引き犯をつかまえたらしいじゃないか。新聞で見たよ」

望月はさも感心したように、おおげさに眉を上げてみせる。「正義感にあふれた、スポーツマンのなかのスポーツマンだと、きみの地元でも話題みたいだよ。特に、仙台城西の陸上部周辺で」

清瀬が走の隣に来て、望月に相対した。

「うちの選手に、勝手に取材しないでください」

「すぐに終わりますから」

望月は **a** と笑う。だが、目は鋭く光っている。

「蔵原くんは、高校二年のときにインターハイに出場して、好成績を収めてるね。でも、三年になってすぐに退部している。それはどうして？」

「ちよつと！」

と清瀬が憤ったが、走は「いいんです、ハイジさん」と **A** 押しどめた。逃げたり隠したりすることはできない。陸上をつづけるかぎり、この件は走にまわりついてくる。竹青荘の住人たちと箱根を目指すときから、覚悟はしていたことだった。

「もう調べてあるんでしょう？」

と走は言った。「俺が監督を殴ったからです」

「監督は鼻の骨が折れたそうじゃないか。しかもきみは、陸上で推薦が内定していた大学を蹴り、部もやめてしまった。 **b** 不祥事が表沙汰になるのを恐れた監督が、事件を内々に済ませようとしたのにもかかわらず、だ」

望月は走の表情をうかがう。「なにがそんなに不満だったのかな？ 監督とどういう仲違いがあったの？」

走は黙っていた。高校時代の監督は、徹底した選手管理と、スパルタ練習法で有名だった。もちろん、それに応じた実績もあげていたから、有能な監督であることにはまちがいない。

だが走は入学当初から、その監督とはそりが合わなかったし、タイムのことばかり口にするやりかたが気に入らなかった。だから、**c** コショウして再起が難しくなった 一年生を、監督が部室で罵っているのを目撃したとき、頭に血が上ってしまっただのだ。その一年生はスポーツ特待生で、部をやめさせられたら、学校にしばらくなくなる。一年生が弱い立場にあることをわかったうえで、監督が **b** といたぶっているとしか、走には思えなかった。

それも、あとから考えてみれば、ということかもしれない。一年生のことは、走にとっては単なるきつかけだった。たまりにたまった鬱憤を爆発させるための、いい起爆剤にすぎない。なぜなら監督を殴った瞬間、走の頭を占めていたのは、「これで終わりにできる」という思いだけだったからだ。

受験番号	
氏名	

一年生のために、というヒロイズムは欠片かけらもなかった。自分がきっかけで先輩が監督を殴ったりしたら、その一年生が部内でどんなに肩身の狭い思いをすることになるか、ということも、考えもしなかった。正義感も思いやりもなく、ただ暴力を振るっただけだ。自分の満足と快感のために。②積つもりに積つもった監督への苛いら立ちと怒りを、晴らすただけに。鼻の軟骨が折れる感触が拳こぶしに伝わって、走は

c したのだった。

「高校の部活動で暴力沙汰。しかも陸上の名門校だ。話が漏れ、きみも否定しなかったために、仙台城西高校陸上部はしばらく自主的な活動停止状態に入った。当時の関係者のなかには、きみをよく思わないひとめけっこういるんじゃないかな。殴られ損の監督はもちろん、試合に出られなかったチームメイトとかね」

「蔵原になにを聞きたいんですか」

と清瀬が割って入った。「あなたがおっしゃったことが事実だとしても、むしろ問うべきは、B ことなかれ主義の学校側の姿勢、ひいては、過度の束縛と干渉で選手を管理し、のびぎかりの才能をつぶしかねない、高校陸上界の一部に*蔓延まんえんする

③成果至上主義だと思いますが」

「きみが寛政大の主将かい？」

望月は清瀬に、値踏みするような視線を向けた。「きみは、蔵原くんが暴力沙汰を起こしたことを知っていた？ 蔵原くんをどう思う」

「才能のある選手です。それ以前に、俺たちにとつては、人間的に信頼のおける仲間だ」

④仲間という言葉に、走の心は揺らいだ。幸せな夢を見ている途中で、急に肩をつかまれて起こされたみたいに。まだ夢のつづきにいるような浮遊感と、現実に戻かえってきたことを残念に思う気持ちと、親しいひとの顔が開けた目に映った*安堵あんどと。いろいろな感情が湧わきあがって、どう受け止めればいいのかわからずにたじろいだ。

わずかに動揺した走には気づかぬまま、清瀬は望月に対して一步も引こうとしなかった。

「帰ってください。取材は広報を通してもらいたい」

広報？ 背後で成り行きを見守っていた竹青荘の住人のあいだで、ざわめきが広がった。神童と*葉菜子が、「はい」「私たちのことです」と手をあげる。

「取材の申し込みをお断りします」

と神童が言い、キングが「そうしろ、そうしろ」とうなづく。大家はなにも口を挟まず、弁当を食べている。事態をd 厄介えきけに感じているのか、おもしろがっているのか、瓢然ひょうぜんとしたその態度からはうかがえない。

「まったく、バナナがまずくなった」

と、ニコチャンに非難の眼差しを送られ、望月はe ニカワラニカワラいした。

「じゃ、最後にひとつだけ。蔵原くんは、今度箱根を走るわけだね。高校のときの監督に言いたいことはあるかい？ ざまあみろでも、なんでもいいんだけど」

「なにもありません」

走は静かに首を振った。謝る気はなかったが、「おまえなんかの世話にならなくても、実力があれば陸上界で生き抜いていくんだ」と勝ち誇る気も、当然なかった。

「俺は後悔しています。あのとき、ぶちのめす以外の方法を、少しも思い浮かべられなかった自分を。それだけです」

翌週発売になった『週刊真実』に、「高校スポーツ界に異変アリ!」という見開き記事が載った。「頻発する不祥事の裏になにが……」と煽あおりがついていて、甲子園常連校や高校サッカーの強豪校に混じって、仙台城西高校陸上部の、かつてのいざこざにも触れてあった。

「先日、万引き犯をつかまえ、話題になったKくん。来年正月の箱根駅伝にも出場する、将来を*嘱望しゅくぼうされている選手だが、Kくんも過去に暴力事件を起こしたという噂うわさがある。仙台J高の陸上部監督は、『その件については、もう過ぎたことですし……』と思わせぶりに口を閉ざすが」云々うんぬんと書かれては、陸上関係者ではなくとも、寛政大の蔵原走のことだと、簡単に推測がつく。「これって明らかに、監督本人がリークしたんじゃない」

受験番号	氏名

ジョージが忌々しげに雑誌を放り投げた。ムサは、

⑤

と走を気づかってくれた。

清瀬と神童は、大学側や後援会への説明と対応に追われた。大家もほうぼうで、「お騒がせして」と頭を下げてまわっているらしい。それを知った走が謝ると、「なあに、監督だから当然だ」と大家は胸を張った。走を責めるようなことは、なにも言わなかった。

清瀬が断固として走を守る姿勢を貫いたので、竹青荘の周辺は平穏なままだった。記事の反響はこのまま沈静化するだろうが、迷惑をかけたことには変わりはない。

竹青荘の住人たちは、いままでどおりの態度で走に接してくれる。その思いに応えるためには、箱根でいい走りをするしかない。走は黙々と走りこみをつづけた。

その夜は飲み会も兼ねて、清瀬から箱根駅伝のエントリーについて説明がある予定だった。練習と*ジョッグを終え、住人たちは*双子の部屋に続々と集まってきた。

当の清瀬は練習後に、どこかへ出かけていった。食事当番はニコチャンとジョータだ。酒の肴になるものを、台所でいっぱい作っているところだろう。手伝おうかと、走が双子の部屋を出て階段を下りかけたところで、携帯電話が鳴った。表示を見ると、仙台の自宅の番号だった。

上京してから、親が走に連絡を取ってきたことは一度もない。竹青荘の住所は葉書で一応知らせたが、それきりだった。学費と、最低限の生活費を銀行口座に振りこんでくれるだけでも、よしとしなければならぬ。両親は、走が陸上推薦で大学に行くことを望んでいた。品行方正な陸上選手としての息子に、期待をかけていたのだ。

通話ボタンを押すと、「走？」となつかしい母親の声がした。

「うん」

「⑥あんだ、雑誌に書かれていたじゃないの。もう目立つことはするなって、あれだけ言って聞かせたのに。お父さんも怒ってるわよ。聞いてんの」

「うん。ごめん」

「こつちで暮らしてる私たちの身にもなっちゃんうだいよ。いい？」

「はい」

「年末年始はどうするの、帰ってくるの」

「いや、箱根に出るから、帰る暇はないと思う」

「あらそう」

母親の声は、明らかに安堵を含んだものになった。「じゃ、いいけど。元気でね」

通話の切れた携帯電話を握りしめ、走はしばらく、階段の半ばでつつ立っていた。

(三浦しをん『風が強く吹いている』より)

*注 蔓延……よくないものの勢いが盛んになって広まる。

安堵……安心すること。

葉菜子……駅伝チームのマネージャー。

囑望……期待すること。

ジョッグ……ゆつくり走ること。

双子……ジョージとジョータは双子の兄弟。

国語 四

受験番号	氏名

(句読点や符号は、すべて一字分と数えて解答しなさい。)

問一 線 a e のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 線部 A 「押しとどめた」・B 「ことなかれ」の意味として、最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

- A

 - ア 身体を押して、元にもどす
 - イ 相手をおさえて止めさせる
 - ウ ある範囲から出ないようにする
 - エ 身体を押してそこに注意を向ける
- B

 - ア 問題を解決する方法を他人任せにする
 - イ 問題の原因を考え、それへの手段を立てる
 - ウ 日常生活がじゃまされることを嫌う
 - エ 見て見ぬふりをして、何事もなく済ます

問三 a c にあてはまる最も適切な言葉を、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

- ア ひやひや イ せいせい ウ こつこつ エ へらへら オ ねちねち

問四 線①「俺の過去を嗅ぎつけてきた」とあるが、「俺の過去」の内容として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 万引き犯を捕まえたこと。 イ インターハイに出場したこと。
- ウ 大学に推薦で内定したこと。 エ 高校時代に監督を殴ったこと。

問五 線②「積もりに積もった監督への苛立ちと怒りを、晴らす」とあるが、これと同じ意味の表現を、本文から二十字以内で抜き出して答えよ。

問六 線③「成果至上主義」とあるが、この主義に基づいた「走」の「高校時代の監督」はどのような指導方法をしていたか。次の文の I ・ II にあてはまる語句を、それぞれ指定字数で文中から抜き出して答えよ。

実績がすべてであるという価値観によって、 I 九字 口にするような II 七字 を取っていた。

国語 五

受験番号	氏名

問七 ――線④「仲間という言葉に、走の心は揺らいだ」とあるが、このときの「走」の心の動きを『人間的に信頼のける仲間』と言われて」に続くように文中の言葉を使って三十字前後で説明しなさい。

問八 本文中の ⑤ に入る最も適切な言葉を、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 気にしないことですよ イ どの監督も熱心ですよ ウ この記事は真実なんですか
- エ Kくんって走のことですよね

問九 ――線⑥「あんた、雑誌に書かれていたじゃないの」とあるが、そのときの母親の心情として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 喜ばしくないことで目立つ息子に腹を立てている。
- イ 久しぶりに電話で息子の声を聴いて懐かしがっている。
- ウ 雑誌に載った息子と話をしていることを誇らしく思っている。
- エ 何が何でも目立とうと思っている息子を持ったことを悲しんでいる。

国語 六

受験番号	
氏 名	

二. 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

対等性の原則とは「人間関係、とくに仲間うちの人間関係は、対等であるべき」という原則を意味します。たとえば、前章で紹介した、わざと顔をゆがめてプリクラを撮る女子高校生の例が、この原則にあてはまります。友人との優劣関係を何となくそうとしていたからです。

また、多くの若者が友人には悩みを相談しないようなのですが、^①この現象も対等性の原則から理解可能です。学生に、「あなたは友人に悩みを打ちあけるか、打ちあけないとしたらその理由は何なのか」というテーマのレポートを何年かだしてきました。

すると多くの学生が、友人に悩みを打ちあけたり相談したりしない、と答えたのです。学生があげた理由はさまざまですが、とくに目をひいたのが、「もし相談したら、相談した自分が相手よりも一段下の立場になり、対等な関係でなくなるから」という答えと、「友人といっしょにいる時間は限られているのだから、せっかくの時間を相談のような重い話題で暗くせず、

^② 明るい話題をして、楽しくすごしたい」という答えでした。

このふたつの答えはリンクしています。「相談して友人関係に重い空気が流れたり、上下関係ができると、楽しくなくなるし、一段下の立場になったひとは傷ついてしまう。だからこそ友人には相談しない」というわけです。

(中略)

なぜ対等性の原則を多くのひとは、これほどまじめに守ろうとするのでしょうか。その最大の理由は、「楽しく時間をすごす」とことと関係します。ここで重要となってくるのが、(中略)「キャラ」的関係です。

集団で楽しく時間をすごすための人間関係の作り方として、若いひとたちを中心に、^③「キャラ」が「発明」されました。「キャラ」には、つつこみ役、つつこまれ役、なだめ役、かわいいキャラ、キレキャラ、クールキャラなど、たくさんあります。

わたしの解釈では、「キャラ」は「お笑いタレント」と呼ばれるひとたちのふるまいを参考にして、^④素人の若者たちが日常生活にとりいれた、人間関係の作り方です。

「キャラ」はもちろん「キャラクター」の略で、「配役、登場人物」という意味の英語です。小説や劇、映画、マンガなどに登場する、ひとつひとつの役柄が「キャラクター」です。「キャラクター」は、映画などの物語全体を結末にむけてスムーズに進行させ、またストーリーをわかりやすくするためにも、それぞれ固有の特徴・性格を持つていなければなりません。言い換えれば、小説の作者や映画の**キャラクター**家は、固有の性格・特徴を持つ役柄を設定しなければなりません。この設定作業が「キャラ立ち」です。

「キャラ立ち」はお笑いの世界でも重要です。たとえば漫才の場合は、よく知られているように、つつこみ役とボケ役からなりたっています。^あ昔ながらの漫才では「キャラ」ということばが使われることはありません。このことばがひんばんに使われはじめたのは、「お笑いタレント」とか「お笑い芸人」と呼ばれるひとびとが登場してきてからです。

漫才師や落語家は、まず師匠に**弟子入り**して、それなりの修行を積んだ後に舞台にあがる、というプロセスを経て、プロの芸人になります。それにたいしてお笑いタレントは、プロデューサーなどのテレビ関係者に「おもしろい」「使える」と認定されてプロになったひと、と言えるでしょう。

^いプロデューサーに「おもしろい」と認められれば、すぐにでもテレビに出演できます。つい昨日までは「おもしろい素人」にすぎなかったひとが、今日はもう「お笑いタレント」になれます。

ここでのポイントは、お笑いタレントと素人の差は、かつての漫才師・落語家と素人の差ほど、大きくないことです。だとすると、お笑いタレントの芸や技術は、素人にもすぐまねしやすいものと言えます。

彼らお笑いタレントは、落語家のように師匠のもとで修行するかわりに、自分たちで笑いを研究し、独自の笑いを編みださなければなりません。そのさい、もっとも重要なのが、自分の「キャラ」を立てることでしょう。

「キャラ」こそ、お笑いタレントたちの「売り」であり「芸」だからです。というのも、お笑いタレントの活躍の場は「お笑いバラエティ番組」です。この種の番組は、歌手や俳優にお笑いタレントが加わって、小集団で視聴者を楽しませるようにできています。「バラエティ」なのですから、^{*}バラエティに富んだ性格・個性を持つひとびとの集まりでないといけません。

受験番号	氏名

その個性の演技が「キャラ」です。

だから、バラエティ番組でおなじ「キャラ」のひとつがいる（「キャラがかぶる」）状態は、望ましくありません。そこでお笑いタレントは、いまままでにない、独自の「キャラ」を開発し、それを「売り」にしなければなりませんのです。

また、視聴者を楽しませるには、出演者自身が楽しんでいる様子をみせなければなりません。ですから、出演者みずからがバラエティ番組を楽しんでいる演技をするための役割分担が、「キャラ」だとも言えます。

バラエティ番組内で、しばしばお笑いタレントたちは「キャラ」を話題にします。彼らにとって、おたがいの「キャラ」は最大関心事だからです。「○○の「キャラ」が変わった!」とか「オレはそんな「キャラ」じゃない!」というふうにです。

彼らは「キャラ」という役割分担をすることで、お笑いバラエティ番組をなりたたせています。だから、だれかが急に役割を変更すれば、全体のバランスがほんの少し崩れ、自分ほどの役割をはたせばよいのか、一瞬とまどってしまうのです。

う、いままで「つつこみ役」だったひとが急に「ボケ役」になってしまえば、いままで「ボケ役」を演じていたひとは、「つつこみ役」にまわれればいいのか、それ以外の役割のほうがいいのか、とまどうでしょう。

また、だれかが「キャラ」を変更すれば、もしかするとその他の出演者と「キャラがかぶる」ことになってしまい、そこに競争関係が発生するかもしれません。たとえば、「つつこみ役」がふたりになってしまえば、どちらのほうがよりおもしろいつつこみをするか、出演者も視聴者も、その上手下手を評価することになるので、よりよい評価をえるために競争しなければならぬわけです。

え、お笑いバラエティ番組でのタレントたちのふるまいは、いつのまにか、わたしたち素人の日常生活にまで浸透しています。われわれが、その手の番組を好んで視聴し、ふだんの人間関係をつくる方法として参考にしてきたからです。

その理由は、わたしたちが日常での人間関係を「楽しい」ものにしたいと強く願っているからです。わたしたちは、友人といるときには、いつも笑っていたいのです。いつも笑っていないかなければならないかのような雰囲気さえ存在します。そこで参考になったのが、お笑いバラエティ番組に登場するお笑いタレントのふるまいかたです。

けれども、「キャラ」的関係は不自然です。なぜなら、集団全体のバランスがとれるように、いつもバラエティに富んだ「キャラ」がそろっているわけではないからです。おなじような「キャラ」のひとばかり、かたよって存在しても不思議ではないはずです。テレビのバラエティ番組なら出演者集団のバランスがとれるように、メンバーをdセンタクして集めます。しかし^⑤日常生活は、テレビ番組ではありません。

ですから、たとえば、ふとしたきっかけで、あらたにだれかが仲間集団に加入する、というようなことが起きます。すると、「キャラがかぶる」事態が発生することもあります。日常生活は、テレビ番組のような予定調和の世界ではないのです。「キャラがかぶる」ことは恐怖だ、と語る学生がいました。彼女の授業中のレポートです。

特に女の子は思うかもしれませんがキャラかぶりは恐怖です。同じような人は二人いなくてもイイというか、^⑥同じような人二人で上下を決められてしかも下だったら恐怖といえますか、競争とかで人間関係がこじれるのを恐れてキャラ分けしているのかもしれませんが。違うレーンを走ってたら勝負しなくていいですから。

この学生が言うように、「キャラがかぶる」と、そこには優劣関係や競争関係が生じます。「キャラ」の演じ方が上手／下手、という上下の差がでてきてしまうのです。上下関係が入りこんでくると、下位（劣位）におかれたひとが楽しいわけはありません。「キャラ」を導入したのは、楽しくすごすためですから、上下関係や競争関係はぜひともeカイヒしなければならない問題となります。

しかし、「キャラ」的關係は、「キャラがかぶる」ことさえなければ、対等性の原則を守ることができ、仲間と楽しくすごすことのできる対人関係法です。とてもうまい方法を発明したものだ、とわたしなんかは感心してしまいます。

（森真一『ほんとうはこわい「やさしさ社会」より』）

令和七年十一月八日

国語 八

受験番号	
氏名	

＊注 バラエティに富んだ …… さまざまな種類があるさま。

(句読点や符号は、すべて一字分と数えて解答しなさい。)

問一 ……線 a e のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 あ へ にあてはまる最も適切な言葉を、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

- ア なぜなら イ たとえば ウ ですから エ ただし オ さて

問三 ……線 ① 「この現象も対等性の原則から理解可能です」とあるが、それはなぜか。その理由を説明した次の文の

I へ III にあてはまる語句を、それぞれ指定字数で文中から抜き出して答えよ。

多くの若者が友人に I 五字 しないのは、相談される人と相談する人との間に II 四字 ができてしまい、
III 五字 ではなくなるから。

問四 ② には、「他にかかわって影響を与えることがない」という意味の言葉が入る。最も適切な言葉を、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア こころにもない イ いうまでもない ウ あたりさわりのない エ ろくでもない

問五 ……線 ③ 『キャラ』が『発明』されました」とあるが、それに対する筆者の気持ちとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 対人関係をうまく築くための工夫として、よくできていると評価している。
イ 今後さらに新たな「キャラ」が発明されることを心から待ち望んでいる。
ウ 「キャラ」があることにより、常に気を使わなければならないと後悔している。
エ 「キャラ」を作ることなしには日々を楽しく送れないことを、残念に思っている。

国語 九

受験番号	
氏名	

問六——線④「素人の若者たちが日常生活にとりいれた」とあるが、若者たちが「お笑いタレント」を参考にして「キラ」を取り入れたのはなぜか。その理由を説明した次の文のⅠ・Ⅱにあてはまる最も適切な言葉を、それぞれ指定字数で文中から抜き出して答えよ。

お笑いタレントはⅠ二字を積まなくてもすぐプロになれるため玄人と素人の差が小さく、その芸をすぐにⅡ六字から。

問七——線⑤「日常生活は、テレビ番組ではありません」とあるが、筆者は「テレビ番組」をどのようなものだと考えていますか。本文中より七字で抜き出しなさい。

問八——線⑥「同じような人二人で上下を決められて」とあるが、何によって上下を決められているのか。本文中より十字以内で抜き出しなさい。

三、次の各文の□に漢字一字を入れて、——線部の三字熟語を完成させよ。

例 山の斜面にぶどうの□樹園がある。 果（樹園）

- ① あまり小□工ばかり考えていると馬鹿を見るよ。
- ② こんな簡単な仕事では君には□不足かな。
- ③ 最近はすがすがしい秋日□が続いています。
- ④ 君は、昔交わした□言葉をまだ覚えているかい。
- ⑤ むこうから対□車が来ているから注意してね。